

県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」への対応方針等

資料4

番号	提言先	項目	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
1	目安箱	新たな観光スポットのアピールを	徳島をもっと観光客に紹介し滞在してもらうために、新たな観光スポットをアピールしていくべき。候補としては南阿波サンライン・吉野川第十堰・磐境神明神社などが考えられる。南阿波サンラインから見える太平洋と千羽海崖の絶景は、他県では見ることができないほど素晴らしい。第十堰は江戸時代に造られており、これも他県では見ることができない。また美馬市の磐境神明神社には、ソロモン大王の失われたアーク伝説がある。	ご提言のとおり、徳島への誘客を促進するためには、既存の観光資源をさらに磨き上げるとともに、活用されていない埋もれた観光資源を発掘し、本県の魅力を積極的かつ継続的に発信し、「観光とくしまブランド」を確立することが重要であると考えている。今後も引き続き、アンテナを高く情報収集をしながら、時代に応じた新たな観光資源を発掘し、様々なチャンネルを通じて、徳島の魅力を国内外に情報発信することで、「観光とくしまブランド」の確立及び観光誘客増大につなげて参りたい。	商工
2	目安箱	徳島空港の新規路線の誘致について	徳島空港を便利に使わせて頂いているが、新規路線として、小型機等で、徳島空港と那覇空港/新千歳空港への定期便の就航依頼を行ってはどうか。 特に那覇空港は、文理大学には沖縄出身の学生が多いと聞き、沖縄旅行へ行くために高松空港/神戸空港/伊丹空港/関空を利用して行く県人も多い。県立高校の修学旅行での活用推進とセットで誘致活動を行えば就航可能な気もするので、ぜひ誘致活動の程お願いしたい。	航空路線の利便性の向上や「徳島阿波おどり空港」の利用拡大を図るため、新規路線の開設等に向け積極的なエアポートセールスに取り組んで参ります。	県土
3	目安箱	震災時の情報収集のためのSNSの構築とシミュレーション	震災時にはSNS・インターネットが自治体と避難所、自治体と個人、避難所と個人を結ぶ大きな力を発揮すると思われるため、特に中高生に、SNSを使った避難所運営の練習をしておいてもらいたい。 県が専用のSNS、災害用HPを開設し、練習用ページを使っての体験・練習を普段の学校の授業でやっておくことで、避難所生活が始まった時、避難所に来る子には実際に情報収集係になってもらえるし、避難所に来ない世帯でも情報が届きやすいと思う。	「すだちくんメール」の登録者同士でグループを作成し、情報のやり取りができる「すだちくんSNS」では、災害時には被災状況等を県や防災関係機関をはじめ、「すだちくんメール」の全ユーザーに発信したり、地図や写真など、様々な情報を共有することができる。 また、ホームページによる情報発信として、防災・危機管理情報の発信を担うサイトとして、「安心とくしま」を運用しており、災害時はもとより、平時から様々な情報を発信している。「安心とくしま」については、県民の皆様によりわかりやすく情報提供を行うため、地図を活用した情報発信を行うなど、ホームページの改修を行っている。 については、県立高校や中学校に設置している「防災クラブ」を中心に、中高生防災クラブ交流イベントなどにおいて、「安心とくしま」について紹介するなど、県の取組みを周知することにより、災害時の情報共有機能の強化を図って参りたい。	危機

番号	提言先	項目	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
4	目安箱	東京五輪に向けたキャンプ地誘致を	<p>東京五輪のキャンプ地誘致活動で、徳島の県や市町村の友好州・県・都市に向けたPR活動が必要。サッカースタジアムを有する鳴門には世界的にも強豪のブラジル(県)、ポルトガル(徳島市)、ドイツ(県・鳴門市)の誘致を目指すべき。</p> <p>また、野球の町を目指す阿南市に世界の野球代表団を誘致すべき。</p> <p>とりわけ、台湾、香港、中国、シンガポール、タイ、韓国等の練習地として徳島を選んでもらうことで、アジア各国のマスコミも集まることから徳島の魅力を発信できるものと思われる。</p>	<p>東京オリンピックについては、鳴門市にあった「板東俘虜収容所」における地元住民との交流が友好関係に発展したドイツを対象国として、事前合宿の誘致や地元文化をアピールする「ホストタウン」に平成28年1月、全国的にも先陣となる第一次で登録を行っている。</p> <p>また、ドイツ・ニーダーザクセン州スポーツ連盟と連携し、「カヌー・柔道・ハンドボール」において、選手や指導者の交流を通じたキャンプ地誘致の取組みを行っている。</p> <p>さらに、東京オリンピックで正式種目となった野球を視野に入れ、昨年、徳島インディゴソックスにも滞在した、台湾野球界のスーパースター「張泰山(チャンタイシャン)」氏を「国際スポーツ親善大使」の第1号として委嘱をしたところであり、様々な分野での交流を進めて参りたい。</p>	県民
5	目安箱	環境・省エネ対策で、東京に対抗しよう	<p>東京都が、家庭の白熱電球とLED電球を交換するという取組みを発表した。スマートエネルギー都市と題し、環境に優しい都市作りを目指しているようだ。</p> <p>LEDと言えば、本県も「ご当地」と言って良いくらい関連があることから、東京に対抗して、LED製品購入の補助制度を作ってみてはいかがか。</p>	<p>LED照明の積極的な導入は、省エネ対策やCO2排出量の削減において効果的であると考えている。そこで、本県では、県内LED関連企業の優れた製品を率先購入し、県内の道路や公園、県立施設のLED化を推進するとともに、県内企業のLED応用製品の販路拡大や普及等につながる取組みを実施しているところ。</p> <p>平成29年度には、LED照明や高断熱素材等による省エネ、蓄電池システムを備えた太陽光発電等の創エネルギーなどにより、消費エネルギーが実質ゼロとなるZEHへの転換を促進する補助制度を実施している。</p> <p>今回のご提言を参考にさせていただき、エンカル消費など、新たな価値観の共有や、意識・行動の変革を促し、県民総活躍による脱炭素社会の実現に取り組んで参ります。</p>	県民
6	目安箱	新産業の創出を	<p>米国ワシントン州は、ベンチャー企業に対して、「技術コンテスト」を導入し、「優勝者には、地元本社を置くか、工場を作ることを条件に、工場建設資金か、製品の量産化の設備投資の資金を、10億円程度、提供する」ことを実行した結果、マイクロソフト社や、アマゾンドットコム社などの、優良企業が誕生した。民間投資ファンドや総合商社などと連携して、「技術コンテストを開催」して、新産業を創出するべき。</p>	<p>本県では、工業技術センターにおいて、「技術シーズ創出調査事業」や「頑張る企業技術支援事業」により提案による審査を経て工業技術センターとの共同研究を実施し、機械加工分野、食品工業分野はもちろんのこと、蓄電池等を用いたパワーエレクトロニクス分野など、幅広い分野において中小企業の技術的支援を行っている。</p> <p>また、平成19年度から実施している、「とくしま経済飛躍ファンド」を活用した新製品開発や販路開拓に関する助成を行い、平成28年12月末現在で、のべ380件、約16億5千万円の利用実績がある。</p> <p>さらに、平成28年度には、産学官で構成する「とくしま高機能素材活用コンソーシアム」を設立し、新産業の育成として、CFRP(炭素繊維強化プラスチック)やCNF(セルロースナノファイバー)といった高機能素材の利活用の可能性、並びに活用人材の育成を推進しているところである。</p> <p>このような支援とともに、本県への企業誘致や集積を図るため、工場等の新設や増設に合わせ、要件に該当する新規地元雇用が見込まれる事業計画には企業立地補助制度を設けており、製造業・情報通信関連事業等、様々な企業ニーズに合わせ積極的に誘致活動を展開しているところである。</p> <p>これらの施策を効果的に実施し、今後とも本県産業の振興、ひいては新産業の創出に関する取組を推進して参りたい。</p>	商工

番号	提言先	項目	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
7	目安箱	新農業戦略の構築に向けて	近い将来、日本の最大のリスクは、少子高齢化が加速度的に進み、企業は言うに及ばず、国力が衰退する懸念が高まっていると言われている。中でも農業は近代化が遅れているため、産官学一丸となって農作業のAIロボット化に向けて研究、開発、実用化に、人材、組織、エネルギーを投入して、作業のスピード化、安全化又コストダウンを図って欲しい。	県では、産学官連携による農業分野のイノベーション創出拠点であるアグリサイエンスゾーンにおいて、ICTやIoT技術を活用し、収穫作業の省力化に資する「自動追尾型・搬送ロボット」や、生産物の収量増やコスト削減に資する「施設内環境モニタリング・制御システム」、「ドローン活用による鳥獣被害対策技術」の開発に取り組んでいる。 今後とも、農作業の効率化やコストダウン等を図るため、ロボット技術、IoT、ビッグデータ、AIを活用した最先端の研究開発に取り組んで参りたい。	農林
8	目安箱	四国4県サイクル王国化～通勤者が語る徳島はこうしてほしい～	現在建設中または運用中の徳島高速道路の土手際に夢の自転車道を併走整備してほしい。 自転車通行は車道の路側帯を左側通行するというルールがあるが、車道は大型車の運行が多くて狭く、歩道は凹凸が多く、砂利でたまにタイヤをとられてしまうこともあり、身の危険を感じる主要道路が多い。 高速自動車道の併設道は利用価値の高い、「夢の道」だと現場を見ていつも思っている。	四国横断自動車道の鳴門JCTから徳島東IC間・約15.6kmについては、現在、西日本高速道路(株)が整備を進めており、このうち、鳴門JCTから徳島IC間は、既に平成27年3月に供用し、南に続く、徳島ICから徳島東IC間については、平成31年度の供用を目指し、鋭意、事業進捗が図られているところ。 その整備にあたっては、高速道路により既存道路が分断される場合、付替道路の整備を行うほか、必要に応じ、高速道路に隣接する側道を設置するなど、高速道路の整備と併せて、周辺に新たな道路ネットワークが完成することとなる。 この側道は、高速道路と並行し、すべての区間が繋がる訳ではないが、完成後には、一般道として広く利用されることとなり、通常、高速道路の供用にともない、市町村に移管され管理されている。 いただいたご提言については、管理者となる市町村へお伝えするとともに、県及び市町村連携のもと「自転車王国とくしま」の発展に向けて取り組んで参りたい。	県土
9	目安箱	秋のイベントについて	徳島は春・夏と大きなイベントが開催され、県外から多数の方が観光に来ているが、秋冬には何もない。 そこで、秋に県を挙げての「徳島収穫祭」なるものを提案する。 海産、畜産、米に野菜。徳島の名産を1日で色々食べられるイベントはいかがか。	県では、毎年11月に「秋の阿波おどり～阿波おどり大絵巻～」や県南部において「四国の右下・食博覧会」を実施し、青果物、阿波尾鶏やアオリイカ等の「徳島の食」をPR・販売する秋のイベントを実施しております。さらに平成29年度には、ラフティング世界選手権(10月)、怪フォーラムin三好市(11月)などに合わせて、イベントトラック「新鮮 なっ！とくしま」号による「味覚の秋」のPR活動を展開している。 また、10月末までは、「ハモ」を観光資源の1つとしてとらえた「徳島の活鱧料理味わいキャンペーン」の開催や県南部で旬の伊勢エビが気軽に味わえる「伊勢エビ祭り」をはじめ、鹿肉づくしの「ジビエフェスタ」等が県内各地で開催されている。 今後とも、観光誘客にも繋がるよう、市町村や関係団体と連携し、「魅力ある秋冬のイベント」による徳島の名産品をPRして参りたい。	農林
10	目安箱	徳島マラソンについて	マラソンのコース幅が狭いとか、景色が単調であるとの評価も見受けられる。 そこで、県庁を起点として今の(川)コースに加え、神山梅(山)コース、鳴門渦潮(海)コースを開設して、一年ごとにコースを変えて開催するというのはどうか。 コースの設定が大変だと思うが、県外からの参加者も増え、長年愛されるマラソンとなると思う。	ご提言のあった「変化のあるコース」の設定は、ランナーの皆様にとって魅力あるものと考えているところであるが、長時間の道路封鎖による交通、沿道住民の生活、経済活動等への影響を考慮し、現在のコースを設定しているところ。また、沿道住民・団体等のボランティア等でのご支援、ご協力もコース設定には重要な要素となっている。 この度の提言は貴重な意見として受けとめ、今後、コースを見直す際の参考とさせていただきたい。	商工